

2022（令和4）年度

駒澤大学 × SDGs

意識調査 結果報告書



駒澤大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



目 次

1. 駒澤大学SDGs意識調査：概要	03
1. 駒澤大学SDGs活動報告書	04
2. 駒澤大学SDGs意識調査とは 目的・方法・対象	05
2. 駒澤大学SDGs意識調査：結果	08
1. 回答者プロフィール	09
2. SDGsの認知度	10
3. 駒澤大学のSDGs活動に対する認知・評価	12
4. SDGs活動に対する関心・意欲	18
5. SDGs活動の経験	26
6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲	32
3. 資料	40
1. 周知用ポスター	41



1. 駒澤大学SDGs意識調査：概要

1. 駒澤大学SDGs活動報告書
2. 駒澤大学SDGs意識調査とは



1. 駒澤大学SDGs活動報告書

駒澤大学は、2022年4月28日に「駒澤大学SDGs実行宣言」を公開しました。この宣言に基づいて、SDGsの達成に貢献できるように、さまざまな活動をおこなっています。

駒澤大学の学生および教職員が取り組んだSDGs活動や、駒澤大学が組織として行ったSDGs活動は、2021年度より「駒澤大学SDGs活動報告書」としてまとめ、大学のホームページなどで公開しています。

これまでに発行した「駒澤大学SDGs活動報告書」につきましては、以下のURLよりご参照ください。

駒澤大学SDGs活動報告書：

<https://www.komazawa-u.ac.jp/social/sdgs/sdgsreport.html>



2. 駒澤大学SDGs意識調査とは

駒澤大学SDGs意識調査について、まず、調査目的を示します。

2 - 2. 調査目的

本調査は、駒澤大学の学生（学部生・大学院生）を対象として、本学の学生がSDGsについてどのような関心をもっているのか、どのような活動をしたいのか、そのためにどのようなことを学びたい、経験したいと考えているのかを知るために行ったものであり、今後の駒澤大学のSDGs活動の推進施策を講じる際に役立てることを目的としています。



2. 駒澤大学SDGs意識調査とは

ここでは2022年度に行った調査の概要のうち、調査方法についてご報告します。

2-2. 調査手法

調査期間：2022年12月16日（金）～2023年2月12日（日）

※調査終了日について、当初2023年1月31日（火）としていましたが、2月12日に延長しました。

調査方法：インターネットアンケート調査

Google Formsを利用し、学部生を対象する調査票および大学院生を対象とする調査票を用いて、ひとり1回の回答としました。

周知方法：

駒澤大学ネットワークコミュニケーションシステム「KONECO」に回答依頼を掲載しました。

駒澤大学教職員情報システム「Garoon」に周知協力依頼を掲載しました。

社会連携センターから教員対象のアンケート回答依頼のメールを送付する際、本調査の周知協力依頼の文章を添えました。

Bcc機能を用いて、全学生に対して回答依頼のメールを送付しました。

ポスター（資料1参照）を作成し、学内に掲示しました。

【ポスターの掲載場所】

駒沢キャンパス：北門、3号館の掲示板（A1サイズ）

本部棟前（A1サイズ）

1号館、4号館、7号館、8号館の掲示板（A3サイズ）

第一研究館、第二研究館の掲示板（A4サイズ）

深沢キャンパス：受付ロビー掲示板（A3サイズ）

各フロア掲示板（A4サイズ）

アンケート調査および周知は、すべて日本語で行いました。



2. 駒澤大学SDGs意識調査とは

引き続き2022年度に行った調査の概要のうち、調査対象およびその内訳についてご報告します。

2-3. 調査対象およびその内訳

調査対象：調査期間において駒澤大学に在籍する学部生（13,945名）
駒澤大学大学院に在籍する大学院生（198名）

※ 学生数は、2022（令和4）年10月31日現在のデータ。

調査対象の内訳：

【学部】

学部・学科	1年			2年			3年			4年			合計					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
仏教	(仏教学部)			160	42	202	167	36	203	—	—	—	—	—	—	327	78	405
	禪			—	—	—	—	—	—	72	9	81	61	16	77	133	25	158
	仏教			—	—	—	—	—	—	71	37	108	88	24	112	159	61	220
	小計			160	42	202	167	36	203	143	46	189	149	40	189	619	164	783
文学	国文			52	91	143	54	83	137	58	73	131	65	82	147	229	329	558
	英米文			60	88	148	57	84	141	47	77	124	60	82	142	224	331	555
	地理	地域文化研究		58	19	77	56	18	74	44	25	69	53	22	75	211	84	295
		地域環境研究		52	21	73	50	19	69	39	17	56	43	28	71	184	85	269
	歴史	日本史学		69	43	112	57	36	93	53	44	97	56	45	101	235	168	403
		外国史学		51	38	89	50	30	80	33	34	67	39	35	74	173	137	310
		考古学		25	23	48	20	15	35	13	22	35	21	15	36	79	75	154
	社会	社会学		25	44	69	28	47	75	27	37	64	31	35	66	111	163	274
		社会福祉学		26	58	84	31	50	81	30	52	82	16	70	86	103	230	333
	心理			42	57	99	37	49	86	30	49	79	38	60	98	147	215	362
	小計			460	482	942	440	431	871	374	430	804	422	474	896	1,696	1,817	3,513
経済	経済			283	89	372	240	92	332	275	84	359	282	94	376	1,080	359	1,439
	商			193	81	274	172	72	244	148	85	233	185	61	246	698	299	997
	現代応用経済			107	44	151	117	40	157	116	45	161	132	50	182	472	179	651
	小計			583	214	797	529	204	733	539	214	753	599	205	804	2,250	837	3,087
法	法律	昼間主コース		217	104	321	206	127	333	183	108	291	241	107	348	847	446	1,293
		夜間主コース		106	44	150	91	41	132	93	31	124	132	36	168	422	152	574
	政治			160	62	222	166	64	230	147	70	217	144	87	231	617	283	900
	小計			483	210	693	463	232	695	423	209	632	517	230	747	1,886	881	2,767
経営	経営			242	114	356	249	115	364	229	110	339	284	104	388	1,004	443	1,447
	市場戦略			101	94	195	101	93	194	98	90	188	136	87	223	436	364	800
	小計			343	208	551	350	208	558	327	200	527	420	191	611	1,440	807	2,247
医療健康科	診療放射線技術科			38	26	64	38	23	61	27	27	54	46	29	75	149	105	254
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア			127	177	304	141	173	314	152	166	318	174	184	358	594	700	1,294
計			2,194	1,359	3,553	2,128	1,307	3,435	1,985	1,292	3,277	2,327	1,353	3,680	8,634	5,311	13,945	

【大学院】

大学院	1年			2年			3年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修士課程	45	24	69	28	34	62	—	—	—	73	58	131
博士課程	4	3	7	10	3	13	9	1	10	23	7	30
専門職学位課程	12	7	19	9	2	11	5	2	7	26	11	37
計	61	34	95	47	39	86	14	3	17	122	76	198



2. 駒澤大学SDGs意識調査：結果

1. 回答者プロフィール
2. SDGsの認知度
3. 駒澤大学のSDGs活動に対する認知・評価
4. SDGs活動に対する関心・意欲
5. SDGs活動の経験
6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲

※ 記述式の回答については、個人が特定されることがないように、一部抜粋したうえで記載しております。
該当箇所は以下のとおりです。

- 3-1-1 駒澤大学への期待（その理由）
- 3-2-2 駒澤大学の取り組みに対する評価（その理由）
- 3-4 「駒澤大学SDGs活動報告書」に対する感想・意見
- 4-2-1 最も関心のあるSDGsの目標（その理由）
- 4-4 最も関心のあるSDGsの目標（その理由、卒業後）
- 5-1-2 SDGsについて学んだ機会（概要）
- 5-2-2 SDGsについて取り組んだ機会（概要）
- 6-1-1 駒澤大学に取り組むことを最も期待するSDGsの目標（その理由）
- 6-2 駒澤大学へのSDGsにかかわる期待



1. 回答者プロフィール

ここでは本調査の有効回答数およびその内訳を示します。

1-1. 有効回答数およびその内訳

有効回答数：学部生（215名） 大学院生（3名） 計 218名
回収率 1.54%

1-2. 回答者の内訳

【学部】

学部・学科	1年				2年				3年				4年				合計									
	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計						
仏教	(仏教学部)				8	4	0	12	3	1	0	4	—	—	—	—	11	5	0	16						
	禪				—	—	—	—	—	—	—	—	4	0	0	4	1	1	0	2	5	1	0	6		
	仏教				—	—	—	—	—	—	—	—	3	1	0	4	3	3	0	6	6	4	0	10		
	小計				8	4	0	12	3	1	0	4	7	1	0	8	4	4	0	8	22	10	0	32		
文学	国文				1	6	1	8	0	6	0	6	1	3	0	4	3	2	0	5	5	17	1	23		
	英米文				0	5	0	5	2	2	0	4	1	3	0	4	1	5	0	6	4	15	0	19		
	地理	地域文化研究				1	1	0	2	3	0	0	3	4	2	0	6	2	0	0	2	10	3	0	13	
		地域環境研究				0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	—	—	—	—	0	2	1	0	3
	歴史	日本史学				5	0	3	8	6	3	0	9	2	3	0	5	2	0	0	2	15	6	3	24	
		外国史学				3	2	0	5	5	1	0	6	—	—	—	0	2	1	0	3	10	4	0	14	
		考古学				4	3	1	8	2	0	0	2	1	3	0	4	0	1	0	1	7	7	1	15	
	社会	社会学				—	—	—	—	0	0	2	0	2	1	1	0	2	—	—	—	0	1	3	0	4
		社会福祉学				1	1	0	2	2	0	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	3	5	0	8	
	心理				0	2	0	2	0	0	1	1	2	1	0	3	—	—	—	—	—	0	2	3	1	6
	小計				15	21	5	41	21	14	1	36	13	18	0	31	10	11	0	21	59	64	6	129		
	経済	経済				1	0	0	1	—	—	—	—	0	1	0	1	2	0	0	1	1	2	0	2	4
商				0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	—	—	—	—	—	0	2	1	0	3	
現代応用経済				—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	1	—	—	—	—	0	0	1	0	1	
小計				1	1	0	2	1	0	0	1	2	1	1	4	0	0	1	1	4	2	2	2	8		
法	法律				3	2	0	5	1	1	0	2	5	1	0	6	5	0	0	5	14	4	0	18		
	政治				—	—	—	—	0	0	2	1	3	3	0	0	3	1	0	0	1	4	2	1	7	
	小計				3	2	0	5	1	3	1	5	8	1	0	9	6	0	0	6	18	6	1	25		
経営	経営				1	1	0	2	2	0	0	2	2	1	0	3	—	—	—	—	0	5	2	0	7	
	市場戦略				—	—	—	—	0	0	5	0	5	0	1	0	1	1	0	0	1	1	6	0	7	
	小計				1	1	0	2	2	5	0	7	2	2	0	4	1	0	0	1	6	8	0	14		
医療健康科	診療放射線技術科				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0		
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア				—	—	—	—	0	1	0	1	1	0	0	1	2	3	0	5	4	3	0	7		
計				28	29	5	62	29	23	2	54	33	23	1	57	23	18	1	42	113	93	9	215			

【大学院】

大学院	1年				2年				3年				合計			
	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計	男	女	—	計
修士課程	1	0	0	1	1	0	0	1	—	—	—	—	2	0	0	2
博士課程	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
専門職学位課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3



2. SDGsの認知度

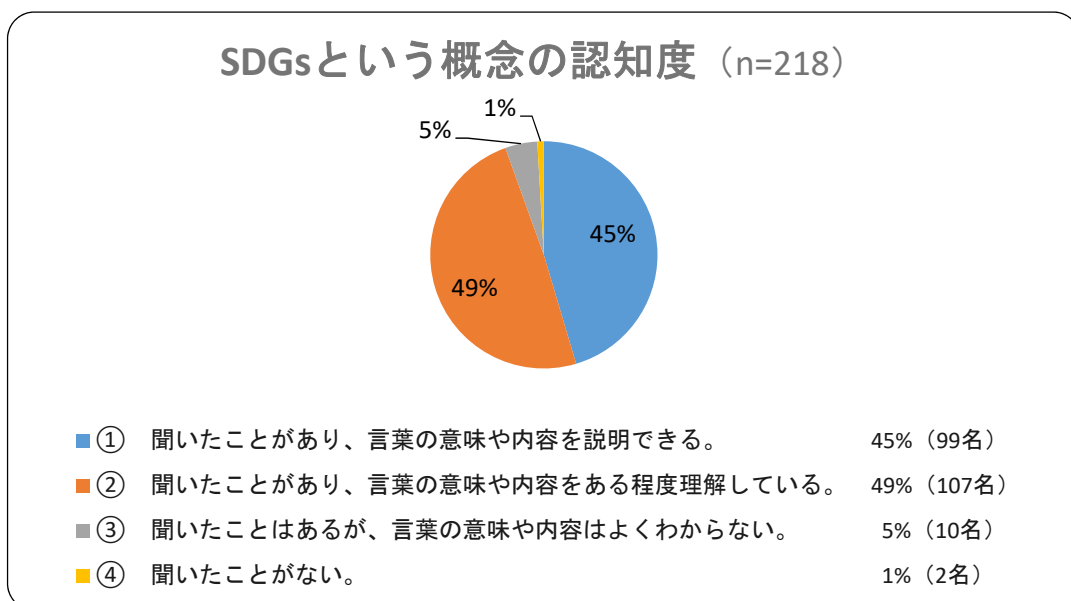
2-1. SDGsの認知度

回答者全員に「このアンケートを行う前からこのアンケートを行う前から「SDGs」という言葉を知っていましたか。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 聞いたことがあり、言葉の意味や内容を説明できる。
- ② 聞いたことがあり、言葉の意味や内容をある程度理解している。
- ③ 聞いたことはあるが、言葉の意味や内容はよくわからない。
- ④ 聞いたことがない。

【結果】

「① 聞いたことがあり、言葉の意味や内容を説明できる」、「② 聞いたことがあり、言葉の意味や内容をある程度理解している」を合わせて、94%の学生が、「SDGs」という概念について一定以上の理解をしていることが示されました。また、「③ 聞いたことはあるが、言葉の意味や内容はよくわからない」まで含めると、ほとんどの学生（回答者の99%）が「SDGs」という言葉を耳にしたことがあるという結果となりました。





2. SDGsの認知度

2-2. SDGsの「17の目標」の認知度

回答者全員に「このアンケートを行う前からSDGsの「17の目標」のことを知っていましたか。」と聞きました。

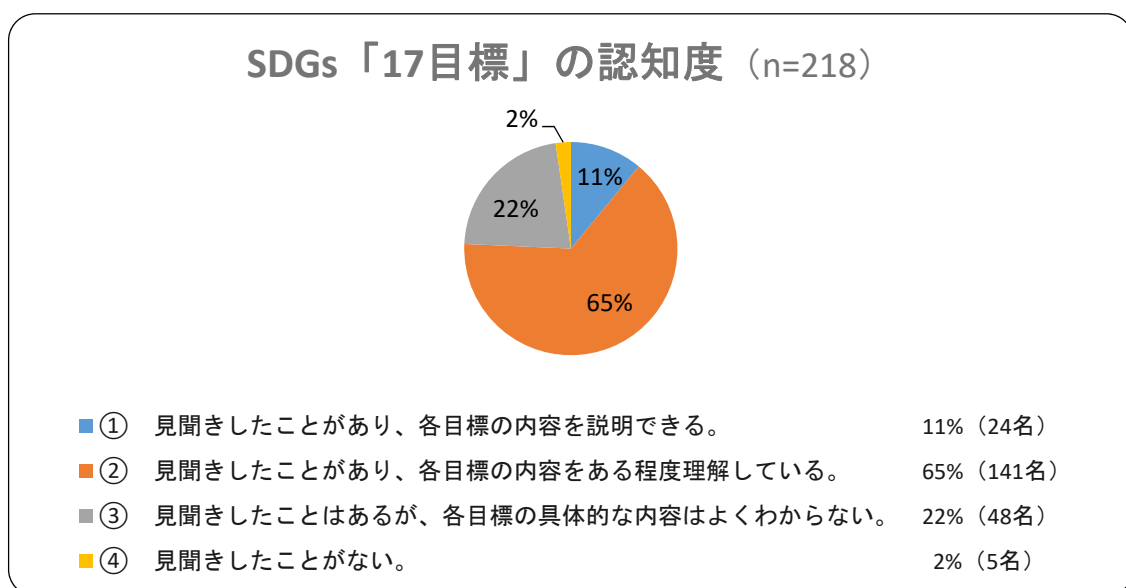
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 見聞きしたことがあり、各目標の内容を説明できる。
- ② 見聞きしたことがあり、各目標の内容をある程度理解している。
- ③ 見聞きしたことはあるが、各目標の具体的な内容はよくわからない。
- ④ 見聞きしたことがない。

【結果】

「SDGs」の「17目標」について、約1割の学生が「① 見聞きしたことがあり、各目標の内容を説明できる」と回答しました。

また、「② 見聞きしたことがあり、各目標の内容をある程度理解している」と合わせると回答者の3/4に及び、多くの学生が「17目標」について具体的に理解しているということが示されました。





3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-1. 駒澤大学への期待

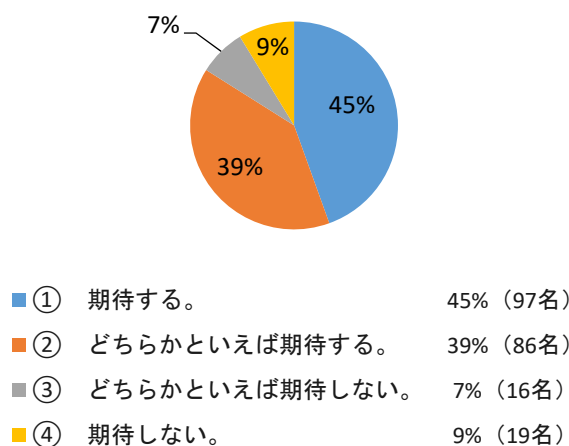
回答者全員に「駒澤大学の学生として、本学が積極的にSDGsに取り組むことを期待しますか。」と聞きました。
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 期待する。
- ② どちらかといえば期待する。
- ③ どちらかといえば期待しない。
- ④ 期待しない。

【結果】

「② どちらかといえば期待する」という回答も含めると、駒澤大学が積極的にSDGs活動に取り組むことを期待するという回答が、84%に及びました。

駒澤大学によるSDGs活動への期待 (n=218)





3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-1-1. 駒澤大学への期待（その理由）

回答者全員に「3-1の回答理由をおしえてください。」と聞きました。
この設問は任意回答です。合計62名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

○ 3-1で「① 期待する」と回答した理由

- SDGs活動に取り組むことは大学にとっても個人にとっても社会的責任があることだと思うから。
- 駒澤大学が社会貢献をするうえで、SDGsの分野での取り組みは欠かせないものであると考えるから。
- 持続可能な社会をつくる必要があることは誰もが理解していると思うが、個人で取り組むことは困難な場合もあり、まずは大きな組織が活動に取り組むことで周りの人間も巻き込んでいくことができると考えるから。
- 大学が組織として取り組むことによって認知度も上がり、課題を解決するための影響力も大きくなると思うから。
- 教育機関が先導して取り組むことによって、学生・教職員・地域の理解が一層深まると考えるから。
- 教育機関が積極的に取り組むことで、その機関で教育を受ける学生達にその考えや姿勢が伝わり、より多くの人々がSDGsに関心をもち、活動の輪が広がると思うから。
- 自分の大学が、世界的な課題に取り組んでいることは誇らしいと感じるから。

○ 3-1で「② どちらかといえば期待する」と回答した理由

- 現代で要請されていることなので意識はするべき。しかし、盲目的に取り組むのではなく本当に必要なことを考えてほしい。
- できる範囲で行えば良いため。
- 人として当たり前にするべきことが含まれているので、同じキャンパスで過ごす人には最低限のことをしてほしいと思うから。

○ 3-1で「③ どちらかといえば期待しない」 / 「④ 期待しない」と回答した理由

- 具体的な取り組みが想像できないから。
- 自分たちより先に生きてきた人間のツケをなぜ若い人間に押し付けるのか理解できないから。
- 社会的なニーズよりも先に、まず学生や教員のニーズに応えることが先だと思うから。



3. 駒澤大学のSDGs活動に対する認知・評価

3-2. 駒澤大学の取り組みに対する評価

回答者全員に「駒澤大学は積極的にSDGs活動に取り組んでいると思いますか。」と聞きました。

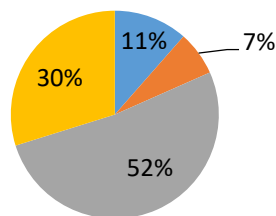
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① そう思う。
- ② どちらかといえばそう思う。
- ③ どちらかといえばそう思わない。
- ④ そう思わない。

【結果】

駒澤大学が積極的にSDGs活動に取り組んでいると評価する回答者は、「① そう思う」、「② どちらかといえばそう思う」を合わせても2割に届きませんでした。この結果から、駒澤大学は学生の期待水準以上にSDGs活動を推進できていない、駒澤大学の活動について学生に適切に伝えることができていない、などといった現状が浮き彫りになりました。

駒澤大学のSDGs活動に対する認知・評価 (n=218)



■ ① そう思う。	11% (25名)
■ ② どちらかといえばそう思う。	7% (15名)
■ ③ どちらかといえばそう思わない。	52% (113名)
■ ④ そう思わない。	30% (65名)



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-2-1. 駒澤大学の取り組みに対する評価（その理由）

回答者全員に「3-2の回答理由をおしえてください。」と聞きました。
この設問は任意回答です。合計61名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

○ 3-2で「① そう思う」と回答した理由

- 授業内容がSDGsについてのもが多かったから。
- 食料や生理用品の配布活動をしてきているから。
- 図書館のマイボトル制度があるから。
- ホームページでバリアフリーマップが公開されているから。

○ 3-2で「② どちらかといえばそう思う」と回答した理由

- 学生への食糧支援の印象が強い。
- 女子トイレの生理用品配布については知っているが、他の項目に対してどのような活動をしているのか具体的には知らないから。
- このような調査を行うからにはある程度期待できるが、実際に何をしているかと問われたら知らないから。
- 教員のSDGsに対する意識が高いと感じるから。
- ホームページやKONECO、掲示板などで活動について見かけるから。
- イベントやセミナーの広報にSDGsのロゴをつけ、関連する内容であることを説明していることが多いから。
- 人がいないときに自動で電気が消えるのは良いシステムだと思う。

○ 3-2で「③ どちらかといえばそう思わない」と回答した理由

- どのような活動をしているのか知らないから。また知る機会がないから。
- 教員紹介のページで研究とSDGsとの関連が記載されていないから。
- どのゴールを目標にしているのかなど、取り組みの方針や内容が周知されていないから。
- 大学内でSDGsという単語を見かけないから。
- ごみの分別ができていない状況を見かけるから。

○ 3-2で「④ そう思わない」と回答した理由

- 何に向けて、何を行っているのか、具体的に知らないから。
- SDGs活動をしているところを実際に見たことがないから。



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-3. 「駒澤大学SDGs活動報告書」の認知度

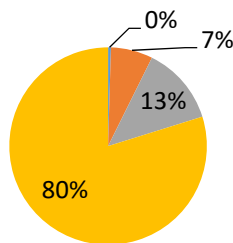
回答者全員に「駒澤大学では昨年度より「駒澤大学SDGs活動報告書」を公開しています。読んだことがありますか。」と聞きました。
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 熟読した☺
- ② 読んだことがある。
- ③ 公開していることは知っていたが、読んだことはない。
- ④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹

【結果】

「駒澤大学SDGs活動報告書」について、回答者のうち8割がその存在自体を知らないという結果となりました。
また、報告書を公開していることを知っていても、実際に読んだことがあると回答した学生は7%と、1割に満たない状況です。
この結果から、「駒澤大学SDGs活動報告書」の公開の方法やその周知方法はもとより、駒澤大学のSDGs活動にかかわる情報の周知のあり方について見直しを図る必要があることがわかりました。

「駒澤大学SDGs活動報告書」の認知度 (n=218)



■ ① 熟読した☺	0% (1名)
■ ② 読んだことがある。	7% (15名)
■ ③ 公開していることは知っていたが、読んだことはない。	13% (28名)
■ ④ そんな報告書があったとは…知らなかった☹	80% (174名)



3. 駒澤大学のSDGs 活動に対する認知・評価

3-4. 「駒澤大学SDGs活動報告書」に対する感想・意見

回答者全員に「「2021（令和3）年度 駒澤大学SDGs活動報告書」のご感想、ご意見がありましたらおしえてください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。合計27名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

【授業について】

- SDGs関連の授業がたくさんあることに驚いた。
- ゼミの教授の授業が該当するのに驚いた。気になる授業があった。
- 仏教の教えとつなげているのが、駒澤らしくて面白かった。また、授業やゼミ、イベントなど色々なものからSDGsを取り上げていてSDGsの取り組みは身近にある、関心が高まると思える内容だった。
- 講義の中でもSDGsが意識され、取り入れられていることを初めて知りました。自分は、そこまでの意識は向けられていなかったもので、来年次以降はこういったところにも関心を持って、学生生活を送っていきたいと感じました。
- 生涯学習については、社会教育主事課程の教員や学生と連携できないだろうかと思った。自分も履修しているので、何かできたら良いなと思った。

【活動について】

- 自分が見聞きしたことよりもいろいろな活動していることを知って驚いた。
- 100円朝食や生理用品配布などもSDGsの一環という側面があることに気づいた。
- 17のゴールごとに細かく記載しており、駒澤大学が自分が思っていたよりも活動を行っていて驚いた。
- 自分もSDGs活動に貢献したいと思った。
- 学生生活をより充実に過ごすための支援が多くなされていると思った。
- SDGs関係なく推進してほしい事業が多かった。

【報告書について】

- 報告書としてまとめていなければ気づけていなかったことも多く、おこがましい表現ではあるが大学の取り組みについて感心するきっかけになった。
- 通っている大学のことをもっと知るべきだなと実感する良い機会となりました。今世の中はどう変わろうとしているのか、もっと興味を持って視野を広げたいと思いました。ありがとうございます。
- 報告書について、効果的な周知をしてほしい。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-1. 回答者自身のSDGs活動に対する関心・意欲

回答者全員に「自分もSDGsに積極的に取り組んでいきたいと思いませんか。」と聞きました。

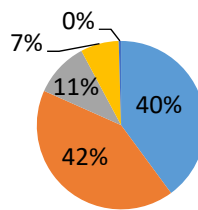
この設問は任意回答です。以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① そう思う。
- ② どちらかといえばそう思う。
- ③ どちらかといえばそう思わない。
- ④ そう思わない。

【結果】

自分もSDGsに積極的に取り組みたいという意欲を持つ学生は、「① そう思う」および「② どちらかといえばそう思う」を合わせて8割以上にのぼるという結果になりました。

SDGs活動に対する関心・意欲（現在）（n=218）



■ ① そう思う。	40% (87名)
■ ② どちらかといえばそう思う。	42% (91名)
■ ③ どちらかといえばそう思わない。	11% (23名)
■ ④ そう思わない。	7% (16名)
■ 無回答	0% (1名)



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-2. 最も関心のあるSDGsの目標

全回答者に「SDGsの目標について、最も関心があり、あなた自身が行いたいゴールをひとつ選んでください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。回答者は以下の選択肢から1つ選んで回答しています。

- ① SDG 1 貧困をなくそう
- ② SDG 2 飢餓をゼロに
- ③ SDG 3 すべての人に健康と福祉を
- ④ SDG 4 質の高い教育をみんなに
- ⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ SDG 6 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ SDG 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ⑧ SDG 8 働きがいも経済成長も
- ⑨ SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ SDG10 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ SDG11 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ SDG12 作る責任 使う責任
- ⑬ SDG13 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ SDG14 海の豊かさを守ろう
- ⑮ SDG15 陸の豊かさも守ろう
- ⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に
- ⑰ SDG17 パートナリーシップで目標を達成しよう

【結果】

本設問には、全回答者（218名）のうち178名が回答しました。

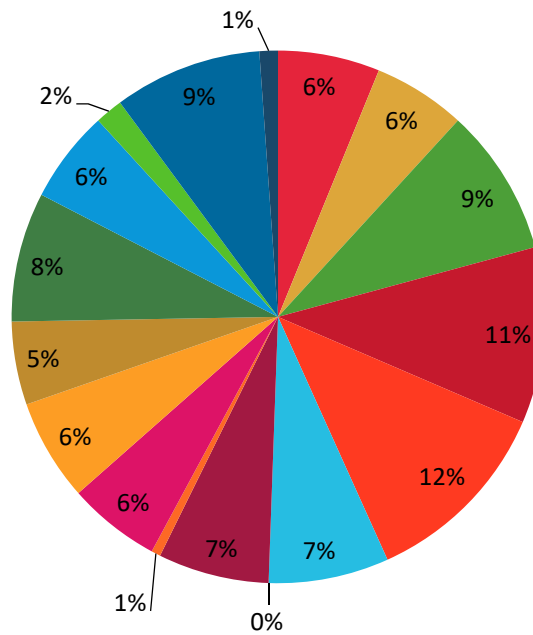
最も多くの回答者が選んだ目標は「⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう」（12%、21名）、次点は「④ SDG 4 質の高い教育をみんなに」（11%、19名）、そして「③ SDG 3 すべての人に健康と福祉を」（9%、16名）と「⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に」（9%、16名）が続くという結果でした。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[結果・つづき]

最も関心のあるSDGsの目標 (n=178)



■ SDG 1 貧困をなくそう	6% (11名)
■ SDG 2 飢餓をゼロに	6% (10名)
■ SDG 3 すべての人に健康と福祉を	9% (16名)
■ SDG 4 質の高い教育をみんなに	11% (19名)
■ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう	12% (21名)
■ SDG 6 安全な水とトイレを世界中に	7% (13名)
■ SDG 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	0% (0名)
■ SDG 8 働きがいも経済成長も	7% (12名)
■ SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1% (1名)
■ SDG 10 人や国の不平等をなくそう	6% (10名)
■ SDG 11 住み続けられるまちづくりを	6% (11名)
■ SDG 12 作る責任 使う責任	5% (9名)
■ SDG 13 気候変動に具体的な対策を	8% (14名)
■ SDG 14 海の豊かさを守ろう	6% (10名)
■ SDG 15 陸の豊かさも守ろう	2% (3名)
■ SDG 16 平和と公正をすべての人に	9% (16名)



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-2-1. 最も関心のあるSDGsの目標（その理由）

4-2で回答した人を対象として、「4-2の回答理由をおしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計43名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

【SDG 1 貧困をなくそう】

- 日本でも貧困問題が深刻化しているため、早急に解決が必要だと思うから。
- 自分が貧困に苦しんだため。

【SDG 2 飢餓をゼロに】

- 食は生きるのに不可欠な営みであると思うから。
- 世界では飢餓で苦しんでいる人や子供達がいると思います。発展している国では食品が余って捨てられていることがあるという現状にあるので、その現状を改善し、少しでも飢餓で苦しむ人たちを救っていきたいと考えたのでこれを選びました。

【SDG 3 すべての人に健康と福祉を】

- 健康は大切だから。
- 現在大学で社会福祉を専攻していて、人々が生きるためにはまず福祉が重要だと講義などを聞いていて感じたから。
- 福祉を専攻する中で、課題解決への取り組みに関心を持ったため。
- 高齢化の進んでいる日本は、人の手を借りて生きていくことが必要になっていくが、それを当たり前せず自分の力で生きていく力をやしなうべきだと思ったから。
- 自分自身が難病を抱えているから。
- 世界も大事だが、まずは自分の身の回りの生活環境の水準を上げたい。

【SDG 4 質の高い教育をみんなに】

- 教育が人の根幹だから。
- 教育が日本の未来を担うと思うから。
- 質の高い教育をみんなが受けれるようにすることで全てのゴールを達成できる人材が育てられるのではないかと思うから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[結果・つづき]

- 教育は国が成長するか、衰退するかを鍵を握る重要な役割を果たしていると考えている。現在の日本で考えると、途上国よりは高水準かもしれないが、先進国の中では決して優れた教育体系を有しているとはいえないと思う。日本がもう一度成長することができるのか、このまま衰退の一途をたどるのか、これからの教育の質が左右させると考えているからである。
- 自分が教員志望であり、最も関連が高そうだったから。
- 社会教育主事課程や博物館学講座を履修しており、教育に関心があるため。

【SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう】

- 長年男女平等は叫ばれてきましたが、いまだ実現できていないから。
- ジェンダー平等は永遠に課題になると思うから。女性の地位をあげようとしていると逆に男性に対する差別になるし、生物学的に（と言っているのかわからないが）男女間で可能・不可能があるため、改善程度までは行っても解決にはならないと考えます。
- 国会や地方議会における女性議員の増加や、企業における男女共同参画社会の推進など、自身が今後社会に出たときに直面しうる問題だと思うから。また、大学では「女性議員を増やすためにはどうするか」「男女共同参画社会を実現するためにはどうすれば良いのか」などの論点について多角的に考察したり、ゼミではLGBT理解増進に関する法律案や日本での性的マイノリティへの意識調査などを扱ったりしたため、「ジェンダー平等を実現しよう」という目標一つを取っても、様々な視点や課題、解決するための手段があることを知った。これらを踏まえて、今後は「女性議員を増やすこと」「男女共同参画社会の実現」がジェンダー平等の実現に繋がるのか、「LGBTへの理解増進」とは何なのかなどの論点について、文献購読やSNS、新聞等から考えていきたい。
- 高校時代にこのテーマについて勉強し、解決策などを実際に考えたから。
- 女性として生まれてきたせいで嫌な思いをしたり、悔しい気持ちになったことがあるので、そういう体験をもうしたくないし、誰にもさせたくないから。
- 社会活動のなかで相対的に生み出されてきた性別的役割や社会的地位といったもののおかしさを、自分が年齢を重ねていく過程や、世界が変わっていく中でひしひしと感じるようになり、偏見やプロトタイプ的な憶測によって判断するだけではなく、すべての人がその人自体として認められるようになったらいいのにと最近強く思うから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

[結果・つづき]

【SDG 8 働きがいも経済成長も】

- 今の日本で最も優先されるべき課題だと思っているから。
- これから働く世代として、日本の経済面に少し思うところがあるから。
- この中で一番、現実的に達成可能であると思うから。

【SDG10 人や国の不平等をなくそう】

- 人種による差別をなくしたいから。
- 日本は相対的貧困率が高い。家計が苦しい人の方が幸福感が低い傾向があるため経済格差の負の影響がなくなってほしいから。

【SDG12 作る責任 使う責任】

- フードロス問題に興味があるため。

【SDG13 気候変動に具体的な対策を】

- 気候変動は地球上の誰にとっても直面する課題であり、問題のスケールも大きいため小さなことでもひとりひとりの意識向上が重要だと考えるから。
- 地球温暖化について考える授業を受けたため。
- 近年、気候変動や、異常気象を実感するようになったため。
- 気候変動による災害が多発しているため、長く安全に過ごせるよう、電気や水道の使いすぎに気をつけたい。
- 日々生きていて、周りの地球温暖化に対する意識が低すぎて呆れるから。「今生活出来れば良いじゃないんだよ」と思います。

【SDG14 海の豊かさを守ろう】

- 海をきれいなまま後世まで残したいから。
- 魚や水族館が好きだから。海洋動物がプラスチックや工場排水などによって苦しんでいるのを救いたいから。
- 知人が海に関係する大学に通っており、この「海の豊かさを守る」という言葉が特に心に残ったため。

【SDG16 平和と公正をすべての人に】

- 平和な世界に暮らすことを望んでいるから。
- 自分が得意な歴史分野を活かせると思ったから。



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-3. 回答者自身のSDGs活動に対する関心・意欲（卒業後）

回答者全員に「卒業したら、SDGsに関連する分野で働きたいと思いませんか。」と聞きました。

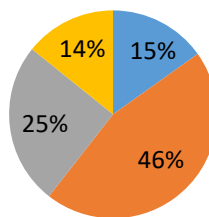
この設問は任意回答です。回答者は以下の選択肢から1つ選んで回答しています。

- ① そう思う。
- ② どちらかといえばそう思う。
- ③ どちらかといえばそう思わない。
- ④ そう思わない。

【結果】

卒業したらSDGsに関連する分野で貢献したいという関心・意欲をもつ回答者は、「① そう思う」および「② どちらかといえばそう思う」を合わせて、約6割という結果になりました。

SDGs活動に対する関心・意欲（卒業後）（n=218）



■ ① そう思う。	15% (33名)
■ ② どちらかといえばそう思う。	46% (99名)
■ ③ どちらかといえばそう思わない。	25% (55名)
■ ④ そう思わない。	14% (31名)



4. SDGs 活動に対する関心・意欲

4-4. 最も関心のあるSDGsの目標（その理由、卒業後）

4-3で「① そう思う」または「② どちらかといえばそう思う」と回答した人を対象として、「4-3について伺います。それはどのような分野のどのような活動ですか。具体的におしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計30名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

【働き方・SDGsへの関わり方について】

- どのような業界、職種であっても何らかの形で関わっていくと思う。
- 自分自身あまり詳しくないので、はっきりとは言えないが、女性が働きやすい職場で働きたい。
- 環境だけではなく、経済分野で地域経済を増長させる。
- 弱い立場の人を支援する活動。例えば、貧しい家庭の子供に教育の支援する。災害で苦しむ人に物資を募るイベントを運営・参加する。貧しい国の産業を手助けする活動をする。以上のような、活動をしてみたいと思っている。

【目指す分野・職種について】

- 社会貢献として教育に携わりたいと考えている。
- 社会教育の分野でSDGsを教えてみたいと考えている。
- 質の高い教育を人々に届ける分野。
- 学芸員として貢献する。
- 留学生の支援できることに向けて活躍したいと考えています。
- 貧困や自然環境の保護の分野
- メーカーとして使用するものをリサイクルして活用する開発分野での活動
- 農業関連です。（特に土づくり）
- 人文系の学芸員などです。
- IT業界で日常を便利にすること。
- 多様な人材の採用や環境配慮、あらゆる差別の是正に力を入れている大手外資系ホテルチェーンに就職が決まっている。

※回答のあった30名のうち7名の回答に「教育」というキーワードが入っており、質の高い教育、社会教育の分野で貢献したいという学生が多いことが分かりました。また、「まだ未定」という回答も複数ありました。



5. SDGs 活動の経験

ここでは、学生生活全般を通じたSDGs活動の経験について聞いています。学生生活全般とは、回答者が本学の学生になって以降の正課授業・課外活動・プライベートを指します。

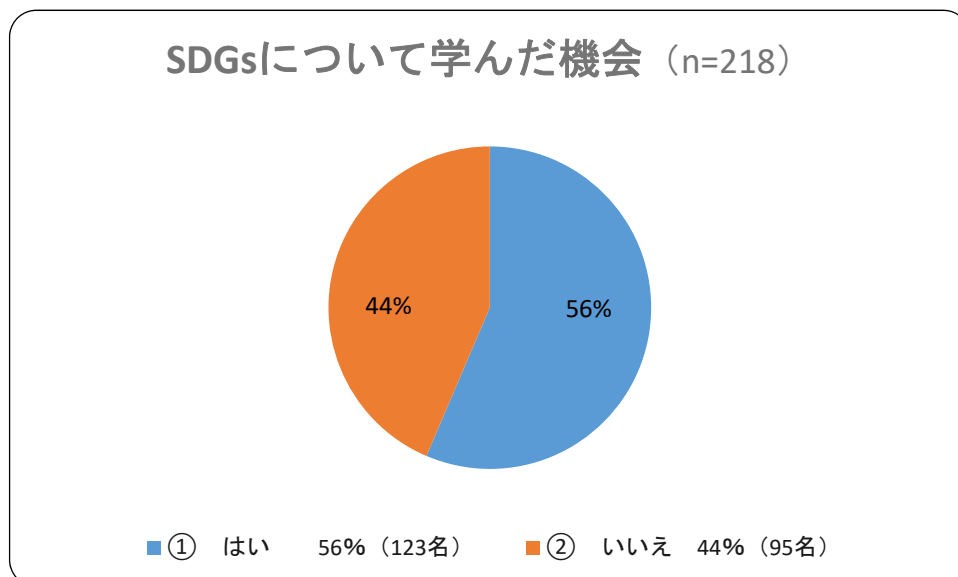
5-1. SDGsについて学んだ機会

回答者全員に「SDGsについて学ぶ機会がありましたか。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① はい
- ② いいえ

【結果】

学生生活全般を通じて、SDGsについて学ぶ機会があったと回答したのは、全回答者（218名）の56%にあたる123名でした。





5. SDGs 活動の経験

5-1-1. SDGsについて学んだ機会（内訳）

5-1で「はい」を選択した回答者に「5-1の回答について伺います。それはどのような機会でしたか。当てはまるものをすべて選択してください。」と聞きました。

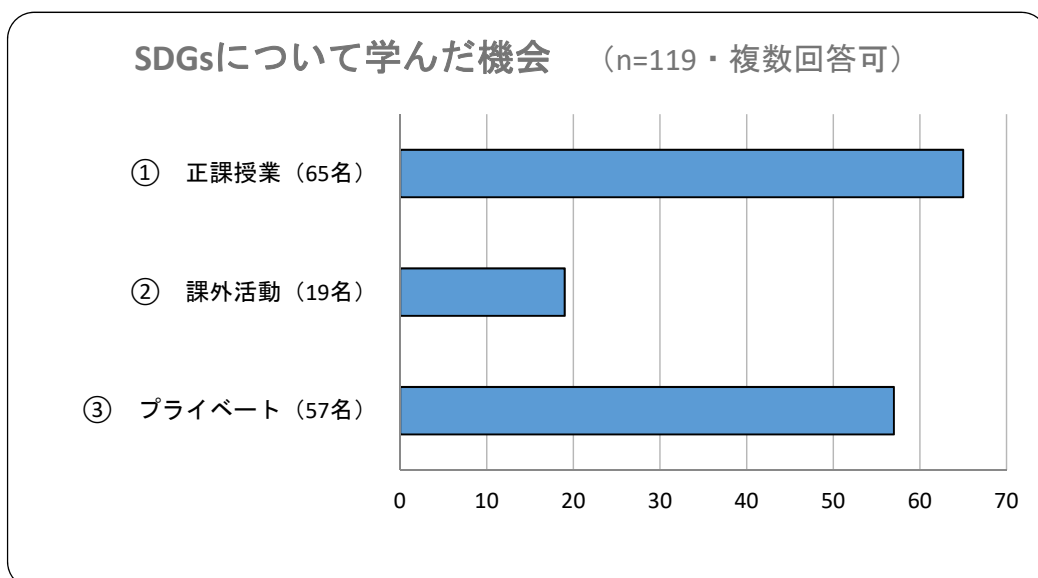
この設問は複数選択可能、かつ任意回答となっています。

回答者は以下の選択肢から当てはまる選択肢を回答しています。

- ① 正課授業
- ② 課外活動
- ③ プライベート

【結果】

本設問の回答対象者123名のうち、119名から回答（複数回答可）が得られました。最も回答が多かったのは「① 正課授業」で、本設問の回答者（119名）の半数以上（65名）が選択しました。これは、全回答者（218名）の約1/3以上（33.5%）に相当し、多くの駒大生が正課授業でSDGsを学んでいることが示されました。プライベートの時間にもSDGsについて学んだ学生は、全回答者（218名）のうち、約1/4に当たる57名いました。駒大生がSDGsの分野の学びにおいて自己研鑽に励んでいると推測できます。





5. SDGs 活動の経験

5-1-2. SDGsについて学んだ機会（概要）

5-1で「はい」を選択した回答者に「5-1の回答について伺います。大学生になって以降、SDGsについて学んだことの中で、最も印象に残っているのはどのようなことですか。概要をおしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計26名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- 5-1-1で「① 正課授業」を選択した方の回答
 - 授業でSDGsの目標に自分で優先順位をつけた後、他の学生と話し合い、それが、各々の目標の中身や必要性について深く考えるきっかけになったこと。
 - 企業がどのように環境問題に取り組んでいるのかを学んだこと。
 - SDGsが良くも悪くも企業に使われている点。
 - 政治のレポートを作成する際に、性差別などのトピックで勉強した。史料を読みながら、現代や宗教と関わらせながら勉強した内容が印象深い。
 - 公民館の事例をもとにSDGsについて検討したこと。
 - 地球温暖化を考える授業で、気候変動について学んだこと。
 - 難民と貧困撲滅の関連について学んだこと。
 - ゼミで輪読したSDGsに関する本（SDGsの概念について）の内容。
 - SDGsに関連した事業のアイデアを出してコンテストに応募したこと。
 - 学生シンポジウムでSDGsのテーマを中心にチームで発表をしたこと。
- 5-1-1で「② 課外活動」を選択した方の回答
 - 学生団体に入っており、SDGsについて若者やZ世代に「自分ごと」として意識を持ってもらう活動をしている。その活動の一環として中学生と合同でシティクリーンをしたことがある。今の中学生は当たり前のように環境・社会問題を授業で学んでおり、それに対する自分の意見を持ち、シティクリーンにも積極的に自ら参画していた。この経験を通じて世代間の意識ギャップの存在を知ることができたことが最も印象深い。
 - 食品ロスの解決のために取り組んだこと。
- 5-1-1で「③ プライベート」を選択した方の回答
 - 地球温暖化が未だに解決されていないことについて家族と話したこと。
 - 男女平等を目指す中で、性差のない服のデザインができていることが印象に残っている。
 - 世界で貧困をなくすどころか日本人が貧乏になってきていること。



5. SDGs 活動の経験

5 - 2. 学生生活におけるSDGs活動の経験

回答者全員に「学生生活全般を通じて、SDGs活動に取り組んだことがありますか。」と聞きました。

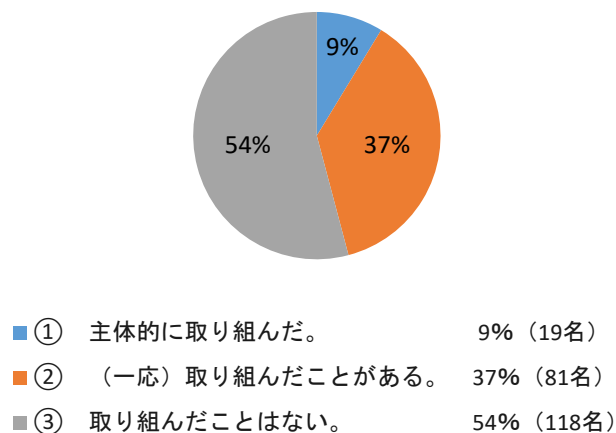
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① 主体的に取り組んだ。
- ② (一応) 取り組んだことがある。
- ③ 取り組んだことはない。

【結果】

全回答者(218名)のうち、約1割がSDGs活動に「① 主体的に取り組んだ」と回答しました。「② (一応) 取り組んだことがある」まで加えると約半数に近い(46%)の回答者が、学生生活の間になんらかのSDGs活動に取り組んだ経験があることが示されました。

学生生活におけるSDGs活動の経験 (n=218)





5. SDGs 活動の経験

5-2-1. SDGsについて取り組んだ機会（内訳）

5-2で「主体的に取り組んだ」および「（一応）取り組んだことがある」を選択した回答者に対して、

「5-2の回答について伺います。それはどのような機会でしたか。

当てはまるものをすべて選択してください。」と聞きました。

この設問は複数選択可能、かつ任意回答となっています。

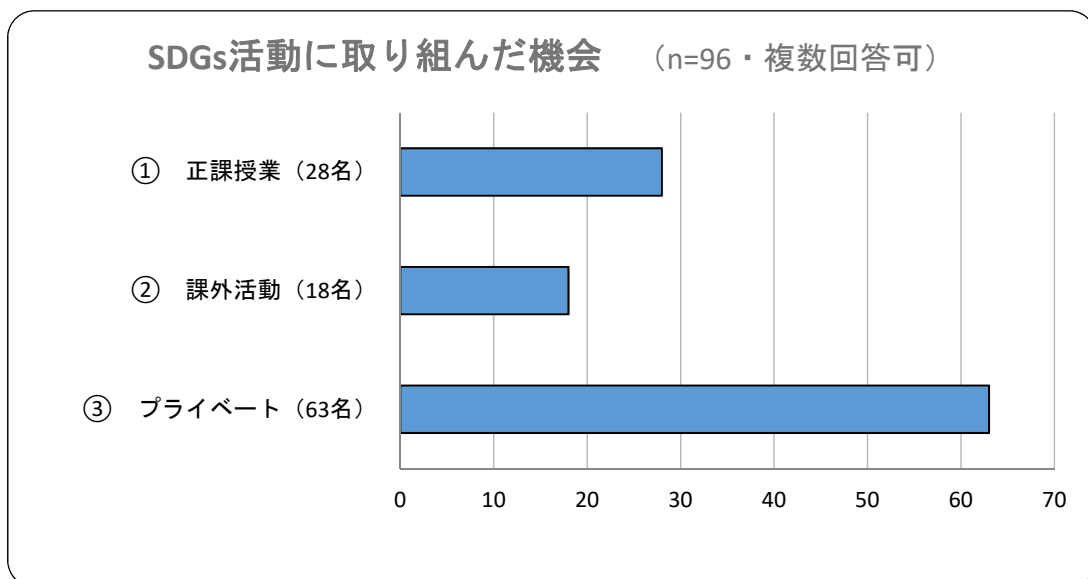
回答者は以下の選択肢から当てはまる選択肢を回答しています。

- ① 正課授業
- ② 課外活動
- ③ プライベート

【結果】

本設問の回答対象者100名のうち、96名から回答（複数回答可）が得られました。最も回答が多かったのは「③ プライベート」で、本設問の回答者（96名）の2/3以上（65.6%）が選択しました。

全回答者（218名）の約1/3近く（28.9%）の学生がプライベートの時間にSDGs活動に取り組んでいることとなります。





5. SDGs 活動の経験

5-2-2. SDGsについて取り組んだ機会（概要）

5-2で「主体的に取り組んだ」および「（一応）取り組んだことがある」を選択した回答者に対して「5-2の回答について伺います。大学生になって以降、SDGsについて取り組んだことの中で、最も印象に残っているのはどのようなことですか。概要をおしえてください。」と聞きました。この設問は任意回答です。合計14名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- ピアサポーター活動に取り組んだ。すべての人に教育を保障する活動にあたると思う。
- 子どもたちへの学習支援ボランティアをしている。
- SDGsについて企業などとディスカッションする機会を設けた。その中でペットボトルのリサイクル率が高いことを知った。ペットボトルをゴミ、悪とみなすのではなく、作る責任、使う責任を全うすることで循環し、共存していく仕組みについて知ったことがとても印象に残っている。
- ゴミの分別をしたり、電気、水をできるだけ使わないなど身近なことだが、重要なことだと思う。
- マイバッグやマイボトルを持参するなど、できることを継続している。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-1. 駒澤大学に取り組むことを最も期待するSDGsの目標

回答者全員に

「SDGsの目標について、駒澤大学に取り組みを期待するのはどの目標ですか。最も期待する目標をひとつ選択してください。」と聞きました。この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① SDG 1 貧困をなくそう
- ② SDG 2 飢餓をゼロに
- ③ SDG 3 すべての人に健康と福祉を
- ④ SDG 4 質の高い教育をみんなに
- ⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ SDG 6 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ SDG 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ⑧ SDG 8 働きがいも経済成長も
- ⑨ SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ SDG10 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ SDG11 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ SDG12 作る責任 使う責任
- ⑬ SDG13 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ SDG14 海の豊かさを守ろう
- ⑮ SDG15 陸の豊かさも守ろう
- ⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に
- ⑰ SDG17 パートナリーシップで目標を達成しよう

【結果】

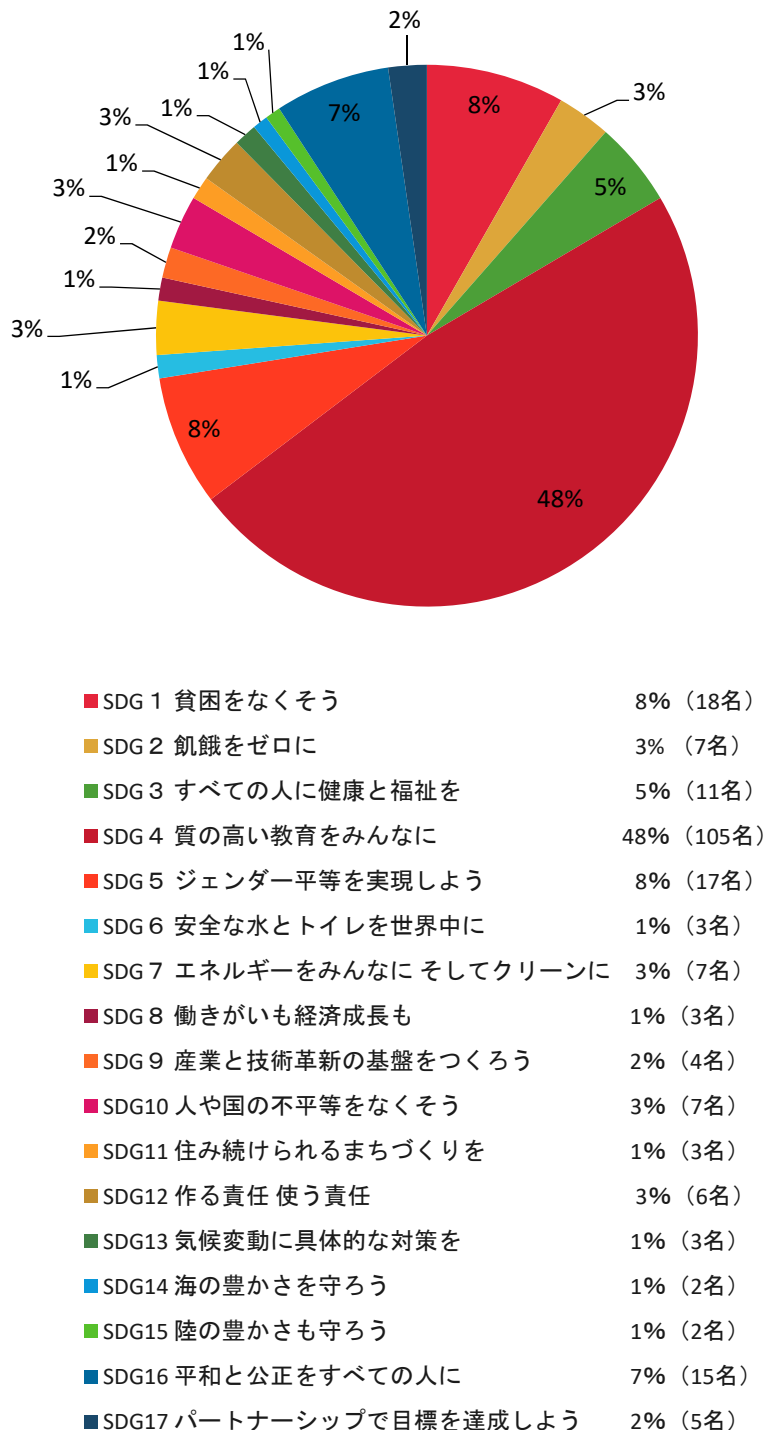
最も多くの回答者が選択した目標は、「④ SDG 4 質の高い教育をみんなに」(48%、105名)でした。全回答者の約半数(48%)に選ばれています。次点は「① SDG 1 貧困をなくそう」(8%、18名)、「⑤ SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう」(8%、17名)、「⑯ SDG16 平和と公正をすべての人に」(7%、15名)、「③ SDG 3 すべての人に健康と福祉を」(5%、11名)と続くという結果になりました。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[結果・つづき]

駒澤大学が取り組むことを
最も期待するSDGsの目標 (n=218)





6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-1-1. 駒澤大学に取り組むことを最も期待するSDGsの目標（その理由）

回答者全員に「6-1の回答理由をおしえてください。」と聞きました。
この設問は任意回答です。合計42名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

【SDG 1 貧困をなくそう】

- 困窮した学生も安心して学校に通えるような大学になってほしい。
- 学生の経済的事情を認識することは重要だと思うから。

【SDG 2 飢餓をゼロに】

- 食べることで元気がでて、健康でいられると思うので誰もが食べるものがある状態が素晴らしいことだと思うから。
- 学生に1番関連する内容であると感じるから。

【SDG 3 すべての人に健康と福祉を】

- 駒澤大学に社会福祉学専攻があることから。
- コロナ禍ということもあり、誰もが等しく健康でいられるような活動をしていくべきだ。大学は多数の学生を抱えているため、支援の必要な学生もいると思う。また、大学を健康・福祉活動の場にすることで、地域とのつながりも生まれるのではないかな。

【SDG 4 質の高い教育をみんなに】

- 大学はそもそも教育機関であり、質の高い教育の提供は最も重視すべきだと思うから。
- 教育機関としての責任があるから。
- 教育がSDGsを解決する手段だと思うから。
- 質の高い教育が受けられれば、多くの学生が自然とSDGsに取り組むと思うから。
- 取り組みがいがあって、何かしらの物事に大きな興味を持てるという、大きな可能性を含んだ授業を受けることが、潤いある活気にあふれた大学生活につながると思うから。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[結果・つづき]

【SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう】

- ジェンダーという概念を知らない学生がまだまだいる。偏った知識のまま行動するのではなく、社会に出る前にしっかり学んでほしいと考えるため。
- キャンパス内でジェンダーの問題で辛い思いをする人がいないように、関係者の理解の促進と取り組みを推進してほしい。

【SDG 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに】

- 東京では他の地域と比べてエネルギーを大量に消費しているため、大学ではエネルギーの使い方を考えるべきだと思う。
- 節電、節水の取り組みを見ているから。

【SDG10 人や国の不平等をなくそう】

- 障害のある友人が講義を受講する際に不平等を感じると言っていたから。

【SDG13 気候変動に具体的な対策を】

- 一番地球温暖化に関心があるため。

【SDG15 陸の豊かさを守ろう】

- 自分が一番達成したいと考えている分野なので、大学側が賛同してくれたら是非ともそのボランティア活動に参加したいから。

【SDG16 平和と公正をすべての人に】

- 仏教の教えに基づいている駒澤だからこそ、何か他とは違う活動ができるのではないかと思ったから。
- 駒澤大学はウクライナ義援金を受け付けたことがあるから。

【SDG17 パートナリシップで目標を達成しよう】

- 東京の一等地に門を構える大学として多くの大学や施設との連携の先導者になってもらいたい。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

6-2. 駒澤大学へのSDGsにかかわる期待

回答者全員に「SDGsに関連して、駒澤大学に期待することを教えてください。」と聞きました。

この設問は任意回答です。合計27名の学生から以下のような回答が寄せられました（一部抜粋）。

- 駒澤大学が今後SDGsの中心大学になること。
- 『SDGsを学ぶ』のようなSDGsが講義名につくような講義を作って欲しい。SDGsを学習することがメインであるということ、分かりやすくすべきだ。また、SDGsを取り扱ったフィールドワークを行う講義があると良いと思う。参加したい。
- 高額な学費を支払っているのだから、学生が卒業後に本当に活かせる事を積極的に発信して参加させていくべきだと思う。任意参加では地球環境も良くなれないと思う。卒業生として少しでも後輩の良い手本となれる社会人として駒澤大学に貢献していきたい。社会人として学んだことなどを発信する場をいつか設けて頂きたい。その為には学生一人ひとりの理解が必要であると考えます。だからこそ、真の意味のSDGsを伝えていくべきだと思う。
- 大学内での活動を全国、そして世界に広めてほしい。
- セミナーを開催してほしい。
- 駒澤大学生のみならず、より多くの子供たちに学びの機会を与えられる活動をしてほしい。

- もっと貧困者に向けて積極的にアプローチしてほしい。
- 学生への支援を充実させてほしい。
- さまざまな状況の学生がいると考えられるが、そのすべての学生が学生として勉学できるようにするための機会を提供する取り組みをしていただきたい。学費援助や食の援助、生理用品の援助など、今も行っている活動の継続が大切だと思う。

- キャンパス内で起こり得るさまざまなハラスメントについて、学ぶ機会と現状を振り返る機会を設けてほしい。
- 8号館を車いすの学生や先生が利用する際に、不便であるように思うので、バリアフリー化を図ってほしい。



6. 駒澤大学の今後のSDGs 活動に対する期待・参加意欲

[結果・つづき]

- クリーンなエネルギーの使い方を推進してほしい。
- 持続可能な施設利用をしてほしい。
- もっと節電してほしい。明らかに必要のない照明があることが気になる。
- 学内にゴミ箱が設置されているが、個人によって燃えるゴミと燃えないゴミの認識が違うことでしっかり分別できていないと思っているので、その点を改善してほしいと感じる。
- 環境保全を推進してほしい。



6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲

ここでは、駒澤大学の今後のSDGs活動について希望や意見を聞いています。

6-3. 駒澤大学が行うSDGs活動への参加意向

回答者全員に「今後、駒澤大学で、SDGs推進に関するイベントや講演会があれば参加してみたいですか。」と聞きました。

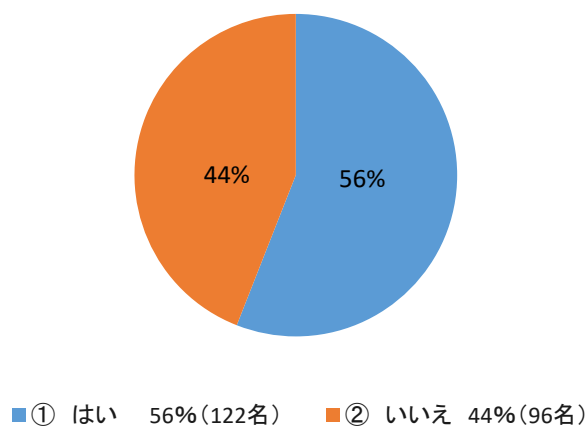
この設問は必須回答であるため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① はい
- ② いいえ

【結果】

全回答者（218名）の半数以上（56%）である122名が、「① はい」と回答し、今後駒澤大学で開催するSDGs推進に関するイベントや講演会に参加する意欲があることが示されました。

駒澤大学が行うSDGs活動への参加意向 (n=218)





6. 駒澤大学の今後のSDGs活動に対する期待・参加意欲

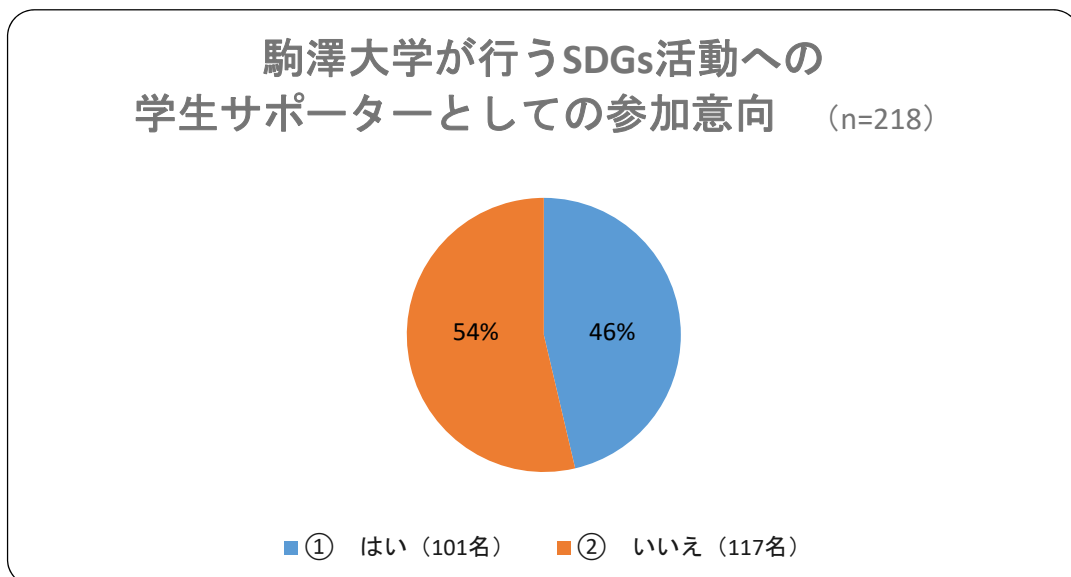
6-4. 駒澤大学が行うSDGs活動への学生サポーターとしての参加意向

回答者全員に「今後、駒澤大学で、SDGs推進に関する取り組みについて、スタッフとして学生サポーターの募集があった場合、参加してみたいですか。」と聞きました。
この設問は必須回答となっているため、回答者全員が以下の選択肢から1つ選択して回答しています。

- ① はい
- ② いいえ

【結果】

全回答者（218名）の半数近く（46%）となる117名が、「① はい」と回答し、今後駒澤大学で開催するSDGs推進に関するイベントや講演会に学生サポーターとして積極的に参加する意欲があることが示されました。





3. 資料

1. 周知用ポスター「駒澤大学SDGs意識調査2022」

駒澤大学

SDGs 意識調査 2022



駒澤大学では、2022年4月28日に「SDGs 実行宣言」を行いました。

今後、学内でのSDGs啓発活動を積極的に推進していく予定です。

啓発活動の一環として、学生を対象とした「SDGs 意識調査」をGoogle Formsを利用して実施します。KONECOもしくは以下のQRコードより調査へのご協力をお願いいたします。

対象者：駒澤大学 学部生・大学院生

回答締切：2023年1月31日（火）

所要時間：5分～10分程度

学部生用

大学院生用



【本件担当】

駒澤大学 社会連携センター



しなやかな、意思。

駒澤大学

発行日 2023（令和5）年3月25日
発行 駒澤大学社会連携委員会
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
TEL 03-3418-9218
FAX 03-3418-9774
事務局 駒澤大学 学術研究推進部 社会連携課（社会連携センター）